

日英の絆「祭り」と「桜」でさらに強く

JAPAN MATSURI 代表 佐野 圭作

はじめに

「祭り」と「桜」は日本の心です。

JAPAN MATSURI 社は英国で、祭りと桜を通じて日英の親善を深める事業に取り組んでいます。在英日本商工会議所（JCCI）をはじめ計4つの日本関連の団体が株主となっている英国の法人です。

JAPAN MATSURI 社に出資する4団体

在英日本商工会議所

Japanese Chamber of Commerce and Industry in the UK

日本クラブ

Nippon Club

ジャパソサエティ

The Japan Society

英国日本人会

Japan Association in the UK

ロンドンのトラファルガー広場では昨年10月、「第13回ジャパン祭り」を4年ぶりに開催し、4万人以上の来場者を集めました。

もうひとつの柱は、桜の木を英国の各地に植樹する慈善活動です。日英協会との共同事業であり、公園や学校などで、約8000本の桜の木を植えました。あと

数年のうちに、累計1万本の植樹を達成できる見通しです。

わたくしは英国日本人会の会長を務めていたこともあり、ふたつの活動に立ち上げ当初から携わってまいりました。今回はこの紙面をお借りして、ふたつの事業が始まった経緯や意義について、お話する機会をいただきます。みなさまに、JAPAN MATSURI 社の2大事業について理解を深めていただき、今後ご支援をいただけますよう、お願い申し上げる次第です。

特に、「第14回ジャパン祭り」を2024年は10月6日に開催します。みなさまから一段のご支援をお願いいたします。

2008年リーマンショックが契機に

そのジャパン祭りの起源は、2008年に米国から世界に波及したグローバル金融危機にあります。

当時の在英日本国大使館の海老原紳大使にお会いした時、自分の思いをぶつけました。「世界恐慌の時のように経済界とみんなの気持ちがお通夜の様に沈み込んでいます。日本社会にとどまらず英国社会も元気づけるため、“日本の祭り”をロンドンで挙行了たいと思います」と。



大使が理解を示されたのに勇気を得て、次に新任の在英日本商工会議所の寺田哲郎会頭に支援をお願いに上がりました。会頭からは即座に励ましの言葉をいただき感銘しました。

「趣旨は分かりました。ひとつだけ頼みたいことがあります。せっかくやるのであれば、『来年もまたぜひ、やってほしい』と言われる祭りになしてください」。

寺田氏は残念ながら、日本に帰任された後に他界されました。その後のジャパン祭りの賑わいをお見せできなかったのは残念です。

「日本古来の精神を、ロンドンで日本人社会を通じて広く英国社会にも伝え、日本人コミュニティだけでなく英国も盛り上げよう」という一心で立ち上げ、皆様から支援をいただき始まったのです。

第1回のジャパン祭りは2009年9月におこないました。リバプール駅近くにあるスピタルフィールズ・マーケットを、幸いにも無償で借りられました。当時のジャパンソサエティの理事であったマイケル・スペンサー氏が近隣に住んでいた関係で会場を無料で確保できました。

ジャパンソサエティの理事会からも応援いただきました。商工会議所や日本クラブ、英国日本人会のご支援と大使館からのサポートをいただきました。また、英国日本人会には英国に永住されている方々が多く、

祭りの実行委員を務めてくださったほか、会員の多くから支援を賜りました。ここに書き添えまして、改めてお礼を申し上げます。

第1回ジャパン祭りは資金も乏しく、お神輿も手作りで素朴なものでした。それでも、約3万人の観衆を集めました。

翌年2010年の第2回ジャパン祭りは、同じ会場で全スペースを借りての拡大開催としました。当時の英国政府のジェレミー・ハント文化大臣にも来場いただきました。なんと約5万人の参加者を集めたのは夢のようでした。

大きくなれば問題も生まれます。3年目の開催に際し、スピタルフィールズ・マーケットの管理者から注文がつけました。「来場者が増えすぎて会場のキャパシティを超えてしまう。規模を半分にしてほしい」というのです。

せっかく盛り上がってきた祭りを縮小するわけにはいきません。白山殖産のマック・オカモト氏が助け舟を出してくださいました。所有されているロンドン・カウンティ・ホール（旧・大ロンドン議会庁舎）を、祭りの会場として無償で提供いただきました。

テムズ河沿いの由緒ある場所で、祭りを盛大におこなえたのは幸運でした。往時の林景一・駐英大使のほかジェレミー・ハント大臣も駆けつけてくださいました。

大人気となりトラファルガー広場へ

2012年の第4回ジャパン祭りで会場が、現在お世話になっているトラファルガー広場に落ち着きました。同時に、広場を管轄するロンドン市に対し、会場の使用料を支払う形になりました。

トラファルガー広場での初の祭りにはロンドン市より往時の副市長のLady Victoria Borwick 女史がご参加されました。ジェレミー・ハント大臣も3回目の参加を賜りました。

祭りの性格も大きく変わりました。英国の人々に向け日本カルチャーの発信力を高めました。英放送局BBCも祭りを取材に来るようになりました。

こうしてジャパン祭りは、英国における日本人コミュニティ最大のイベントに成長してきました。2020年からは残念ながら、Covid19の影響で3年連続で休止せざるを得ませんでした。

ようやく昨年2023年に、幸運にも第13回ジャパン祭りとして盛大に再開できました。林肇駐英大使に

ジャパン祭りの名誉会長をお願いしました。ジェレミー・ハント財務相には久しぶりに4回目のご来場をいただきました。ウエストミンスターのメイヤーをはじめ、多くのローカルメイヤーのご参加もいただきました。日系企業を代表して商工会議所の高田明彦・会頭には乾杯の音頭のご発声をしていただきました。

JAPAN MATSURI 社の株主4団体のほか、屋台などブースを出展してくれたみなさま、多くのボランティアの皆様にも心から感謝します。また、5万人にも及ぶとした来場者の皆様にも御礼申し上げます。

改めて祭り実行委員長として、この場を借りまして、2024年の開催をお誓い申し上げる次第です。



▲リージェンツパークにて（2024年4月4日）

桜の植樹、永久不滅プロジェクトに

続いて、JAPAN MATSURI 社が取り組む「桜植樹日英親善プロジェクト」について、お話しします。

ロンドン北部ヘンドン地区に、戦前からの日本人墓地「皇国同胞の墓」があるのを、ご存じでしょうか。2016年7月30日にヘンドンで、墓地の建立80周年記念式典をとりおこなったのが桜プロジェクトの始まりです。

式典の計画を練っているときに、往時の在英日本大使館の文化公使だった水鳥真美さんから、大きな知恵を授かりました。

水鳥さんが「麻生太郎さんは吉田茂さんのお孫さんですから、式典に招待したらいかがですか？」と言うのです。意味が分からずにわたしがキョトンとした顔をしていると、続けて言われました。

「吉田茂さんは1936年（昭和11年）10月3日の皇国同胞の墓の建立時の駐英日本国大使ですからね！」

さっそく往時の林景一大使にご指導いただき、麻生副総理（当時）に、英国日本人会としてお手紙を差し上げました。わたしの拙い文面を大使が大幅に手直しもしていただきました。そして、副総理におかれては、欧州に公務でいらっしゃるスケジュールの中から1日を割いてくださいました。

記念式典は、英国が6月23日にEUからの離脱（Brexit）を決めてから間もないころでした。お力添え下さった林景一大使は既に御帰任されて、後任の鶴岡公二大使が副総理をお迎えして下さいました。

記念式典では、英国日本人会の墓地管理部理事の藤田幸子さんが桜の苗木を2本用意してくれました。

1本は麻生副総理と鶴岡大使に植樹して頂きました。もう1本はバーネット区のデイビッド・ロングスタッフ区長と小職が植樹しました。

副総理と大使が植樹しているのをみながら次のように思いました。「英国はこれからBrexitで大変だろう。では日本人、日本企業は英国を去るだろうか？」



▲日本人墓地建立80周年記念式典

とんでもない。この墓地に眠る先達にしても、日本人は英国にお世話になってきた。今こそ我々が英国と英国人を、日本人の心である『桜』を植樹して大いに元気づけできたら素晴らしいのではないかと？」

その後、機会があるときに鶴岡大使に相談し、お力添えを賜ることになりました。しかし、実際にプロジェクトを始めるにあたり、資金の調達や植樹する場所の選定、桜の苗木の手配をどうするか、などなど課題はたくさんありました。

どうしたものかと思案を巡らしていたとき、日本に一時帰国した際に会食をした旧知の友人が思いがけず、大きな役割を果たしてくれることになりました。元みずほ銀行頭取の塚本隆史氏です。食事の席で互いの近況を話していたところ、塚本氏がなんと日英協会の理事長に就かれているとわかったのです。

「塚本さん、これは奇遇ですね。どうか、桜の植樹にお力添えをお願いできませんか」と、さっそくその場で伏してお願いしたのが、2016年の秋口でした。

翌年2017年2月ごろ再び日本に行き、塚本理事長のほか往時の安倍首相秘書官も交えて会合を持ちました。この打ち合わせの席で、桜の植樹プロジェクトを進める方針が決まりました。

日英の両首脳が共同宣言で公認

そして、2017年8月に、急転直下の展開が待っていました。訪日したメイ英国首相が安倍首相と首脳会談した際に日英共同宣言を発表しました。その宣言のなかに、桜の木を英国に寄贈するわれわれのプロジェクトが盛り込まれました。

いわば、日英の両首脳が公認する事業となったわけです。わたし自身も、塚本理事長から電話で共同宣言のことを知らされて驚いた次第でした。急転直下、両国の政府の間でお決め下さったのだと後から知った次第でした。

以来、日本での募金活動を必死に塚本理事長が頑張って下さり、約6千万円に及ぶ協賛を35社から得て下さいました。ロンドン側でも、多くの会社から在英日本商工会議所(JCCI)を通じて、2千万円強の協賛金をいただきました。

あわせて8千万円強の資金をもとに、英国内の公園と、ジャパソサエティが日本語教育を通じて関係がある学校を対象に、英国全土で植樹活動を繰り広げました。

ジャパン祭り並びに福島復興に大きく貢献して下さいているLady Victoria Borwickさんには公園関連並びに政府関連で多大なご支援を賜っております。また、学校への桜の寄贈に関しては、ジャパソサエティからの多大なるご支援と大使館からのサポートをいただいている点につき、ここに付記いたします。

ウェールズにおいてはウェールズ名誉領事のキース・ダンさんに、場所の選定から植樹のセレモニーまで、大いに助けていただいております。

2019年11月27日にはリージェンツパークで盛大な桜植樹プロジェクト記念式典を開けました。公園を管理するロンドン・ロイヤル・パークには、往時の鶴岡大使のお計らいで、ジャパソサエティの名誉ロイヤルのDuke of Gloucesterのご紹介によりコンタクトしました。土屋大輔実行委員が実際の交渉にあたってくれました。

式典には、着任されたばかりの長嶺安政大使にくわえ、Duke of Gloucesterのご来臨を賜りました。日系企業ならびに地元コミュニティが力をあわせて盛大に式典を執り行いました。英国日本人会会長のウインター千津子さん、ジャパソサエティのハイジ・ポッターさんにも多くのご支援をいただきましたことも書き添えさせていただきます。

なお、リージェンツパークの池沿いに17セットのベンチも寄贈しました。ベンチには協賛いただいた会社さんのお名前を記したプレートをつけてあります。ぜひ、ベンチにお座りになってプレートをご覧ください。

2021年からは、林肇大使が英国全土を東奔西走くんだり、多くの公園と学校に植樹を広めてくださっております。

今般、英国の首相と財務相のそれぞれの別邸にも桜を植樹しました。桜を通じて日本の真心を受け入れてくださる英国のみなさんに感謝します。同時に、われわれの誇りでもあります。

2024年4月4日には、桜プロジェクトが5周年を迎えたのを記念して、リージェンツパークに関係者のみなさま100人近くがご集まりました(前ページに写真)。葉桜をめでたあと、公園の向かいにある大和ジャパソハウスにて、レセプションを開催いたしました。林肇大使やBorwickさんにもご参加いただきました。

みなさまも桜の木ひとつひとつに思いを寄せてください。これから100年にわたり、英国の地に桜前線が広がり続けますよう、これからもご支援をどうぞ宜しくお願いします。



筆者近影